

2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月9日

上場会社名 株式会社ツカダ・グローバルホールディング 上場取引所 東  
 コード番号 2418 URL <https://www.tsukada-global.holdings>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田正之  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 山崎誠広 (TEL) 03-5464-0081  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第3四半期の連結業績 (2023年1月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	39,660	14.5	1,530	—	2,569	19.0	2,321	707.7
2022年12月期第3四半期	34,627	64.0	△378	—	2,158	—	287	—

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 2,641百万円(73.6%) 2022年12月期第3四半期 1,521百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2023年12月期第3四半期	48.	66	—	—
2022年12月期第3四半期	6.	03	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	87,079	—	25,250	—	28.7	—
2022年12月期	87,472	—	23,086	—	26.1	—

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 25,004百万円 2022年12月期 22,866百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	円	円	円	円
2022年12月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年12月期	—	5.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年12月期の連結業績予想 (2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	58,300	12.8	4,738	59.2	4,771	0.3	3,950	163.6	82.	81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 ー社(社名) ー、除外 ー社(社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年12月期3Q	48,960,000株	2022年12月期	48,960,000株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	1,259,834株	2022年12月期	1,259,834株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年12月期3Q	47,700,166株	2022年12月期3Q	47,700,166株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	9
(収益認識関係)	9
3. 補足情報	10
(施行及び受注の状況)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や民間設備投資の持ち直し及び雇用・所得環境が改善するなど、各種政策の効果が顕在化する中、全体として緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、地政学的リスクの高まりによるサプライチェーンの混乱、エネルギーコスト及び原材料価格の高騰など、先行きについては依然不透明な状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループはブライダル市場、ホテル市場及びウェルネス&リラクゼーション(W&R)市場における新たな価値の創造、高品質かつ魅力あふれる店舗づくりと付加価値の高いサービスの提供に取り組み、多様化するお客様のニーズに的確に対応することで、売上高の拡大と収益性の向上に努めてまいりました。

ホテル事業においては、新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げによる国内旅行客数の増加及び渡航制限解除による訪日外国人数が2百万人(日本政府観光局「訪日外国人数(2023年9月推計値)」)を超え、同数は2019年同月比96.1%まで回復いたしました。これらの影響から宿泊稼働率及び宿泊単価が上昇し、安定した状況で推移いたしました。また、婚礼事業及びホテル事業における婚礼施行件数においても、昨年まで頻発しておりました新型コロナウイルス感染症の影響による延期等もほぼなくなり平時に戻りつつあります。しかしながら、婚礼施行単価においては少人数婚礼数の増加に起因する戻りの停滞など、先行きの見通しが難しい状況にあります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、39,660百万円(前年同四半期比14.5%増)となり、利益面につきましては、営業利益1,530百万円(前年同四半期は営業損失378百万円)、営業外収益において為替差益1,081百万円の計上により、経常利益は2,569百万円(前年同四半期比19.0%増)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益については2,321百万円(同707.7%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① 婚礼事業

当第3四半期連結累計期間においては、婚礼施行件数が7,345件(前年同四半期比0.1%減)と微減となりましたが、婚礼施行単価が前年同四半期比で緩やかな回復となり売上高は微増となりました。しかしながら利益面においては婚礼施行単価について少人数婚礼の増加により回復途上にあり、当該事象が収益性の低下を招いたこと及びエネルギーコスト等の増加により前年同四半期比では減少することとなりました。

この結果、当セグメントの売上高は23,612百万円(同2.7%増)、セグメント利益は2,100百万円(同29.6%減)となりました。

#### ② ホテル事業

当第3四半期連結累計期間においては、ホテル婚礼施行件数が1,169件(同1.5%増)と微増となり、宿泊稼働率及び宿泊単価についても国内旅行客数及び訪日外国人数の増加から堅調に推移し、急減したインバウンド需要についても緩やかに回復しております。

この結果、当セグメントの売上高は13,838百万円(同46.8%増)、セグメント利益は919百万円(前年同四半期はセグメント損失2,059百万円)となりました。

#### ③ W&R事業

当第3四半期連結累計期間においては、複合温浴施設「美楽温泉SPA-HERBS」が「ニフティ温泉年間ランキング」全国総合第1位に選出され、来館数、売上高、セグメント利益ともに前年同四半期を上回り牽引いたしました。しかしながら、英国式リフレクソロジーサロン「クイーンズウェイ」については、施術スタッフの増員に苦戦したこと、また、不採算店舗の閉鎖等の影響により当セグメント売上高は微減となり、利益面では回復基調にありますが損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は2,209百万円(前年同四半期比0.2%減)、セグメント損失は87百万円(前年同四半期はセグメント損失263百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ392百万円減少して、87,079百万円となりました。これは主に、流動資産のその他が2,854百万円増加しましたが、有利子負債の返済及び納税により現金及び預金が2,180百万円及び減価償却により有形固定資産が1,048百万円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債総額は、前連結会計年度末に比べ2,557百万円減少して、61,829百万円となりました。これは主に、返済により長期借入金（1年内含む）が1,360百万円及び償還により社債（1年内含む）が747百万円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産総額は、前連結会計年度末に比べ2,164百万円増加して、25,250百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が1,844百万円増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は28.7%となり前連結会計年度末に比べ2.6ポイント増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2023年8月9日付け第2四半期決算短信にて公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合は、速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,238	19,057
売掛金	1,479	1,355
商品	166	174
原材料及び貯蔵品	381	348
その他	1,360	4,215
貸倒引当金	△37	△40
流動資産合計	24,588	25,109
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	29,083	28,385
土地	9,544	9,641
建設仮勘定	1,007	712
その他（純額）	1,496	1,343
有形固定資産合計	41,131	40,082
無形固定資産		
のれん	1,157	933
その他	1,020	953
無形固定資産合計	2,177	1,886
投資その他の資産		
投資有価証券	5,599	6,206
敷金及び保証金	7,211	7,065
その他	6,703	6,704
貸倒引当金	△121	△135
投資その他の資産合計	19,392	19,840
固定資産合計	62,702	61,810
繰延資産	181	158
資産合計	87,472	87,079

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,101	1,865
1年内返済予定の長期借入金	7,106	7,134
1年内償還予定の社債	964	994
未払法人税等	839	309
前受金	3,107	3,972
店舗閉鎖損失引当金	62	6
資産除去債務	47	34
その他	4,300	3,816
流動負債合計	18,530	18,135
固定負債		
社債	5,703	4,926
長期借入金	33,722	32,333
退職給付に係る負債	407	435
役員退職慰労引当金	953	994
資産除去債務	4,535	4,574
その他	532	429
固定負債合計	45,855	43,694
負債合計	64,386	61,829
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	472	472
資本剰余金	634	634
利益剰余金	22,140	23,984
自己株式	△892	△892
株主資本合計	22,353	24,198
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	171	194
為替換算調整勘定	347	619
退職給付に係る調整累計額	△5	△6
その他の包括利益累計額合計	513	806
非支配株主持分	219	245
純資産合計	23,086	25,250
負債純資産合計	87,472	87,079

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年9月30日)
売上高	34,627	39,660
売上原価	24,371	26,037
売上総利益	10,255	13,622
販売費及び一般管理費	10,634	12,091
営業利益又は営業損失(△)	△378	1,530
営業外収益		
受取利息	26	119
匿名組合投資利益	152	151
出資金運用益	-	51
助成金収入	1,292	19
為替差益	1,794	1,081
その他	95	139
営業外収益合計	3,361	1,562
営業外費用		
支払利息	353	380
出資金運用損	152	-
持分法による投資損失	38	88
その他	280	55
営業外費用合計	824	524
経常利益	2,158	2,569
特別利益		
受取補償金	-	700
固定資産売却益	0	0
会員権売却益	3	-
特別利益合計	3	700
特別損失		
固定資産除却損	0	62
店舗閉鎖損失	13	44
投資有価証券売却損	98	-
その他	0	26
特別損失合計	112	133
税金等調整前四半期純利益	2,049	3,135
法人税等	1,759	815
四半期純利益	290	2,320
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	287	2,321



## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	290	2,320
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	-
繰延ヘッジ損益	493	22
為替換算調整勘定	311	89
退職給付に係る調整額	△1	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	389	210
その他の包括利益合計	1,231	321
四半期包括利益	1,521	2,641
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,469	2,614
非支配株主に係る四半期包括利益	52	26

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(簡便な会計処理)

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	22,907	9,425	2,214	34,547	—	34,547
その他の収益	80	—	—	80	—	80
外部顧客への売上高	22,987	9,425	2,214	34,627	—	34,627
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,287	680	24	1,992	△1,992	—
計	24,275	10,105	2,239	36,620	△1,992	34,627
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,983	△2,059	△263	659	△1,038	△378

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,038百万円には、セグメント間取引消去67百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,105百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる 収益	23,587	13,838	2,209	39,635	—	39,635
その他の収益	24	—	—	24	—	24
外部顧客への売上高	23,612	13,838	2,209	39,660	—	39,660
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,383	706	25	2,116	△2,116	—
計	24,996	14,545	2,235	41,776	△2,116	39,660
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,100	919	△87	2,933	△1,402	1,530

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,402百万円には、セグメント間取引消去17百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,420百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報)」に記載のとおりであります。

## 3. 補足情報

(施行及び受注の状況)

## (1) 婚礼施行実績

期別	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
セグメントの名称	施行件数 (件)	施行件数 (件)	施行件数 (件)
婚礼事業	7,351	7,345	10,837
ホテル事業	1,152	1,169	1,660
合計	8,503	8,514	12,497

## (2) 婚礼受注状況

期別	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)		前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)
セグメントの名称						
婚礼事業	7,667	7,323	8,820	7,455	9,810	5,980
ホテル事業	1,191	1,260	1,703	1,654	1,559	1,120
合計	8,858	8,583	10,523	9,109	11,369	7,100